

令和元年11月12日
(2019年)

保護者の皆さまへ

吹田市立佐井寺中学校
校長 山口 廣治

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学、英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語科《概要》

- <話すこと・聞くこと> … 全国平均正答率をやや上回る。
- <書くこと> … 全国平均正答率を下回る。
- <読むこと> … 全国平均正答率をやや上回る。
- <言語事項> … 全国平均正答率をやや上回る。

●国語における成果と今後の改善点について

今年度「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」において全国平均を上回る結果となりました。各設問の正答率を見る中で、普段からの言語活動への取り組み、文章中の情報を正確に読み取る取り組み、漢字・言語に関する知識の定着への取り組みの成果が見られました。

ただ、「書くこと」の領域において、全国平均正答率を下回る結果となりました。全国無回答率平均と比較した際に、本校の多くの生徒たちが自分の意見や考えを書くことに課題があることがわかります。また、「読むこと」の領域において、「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」という趣旨の問題に関しても、全国正答率平均をやや下回る結果となりました。

このことから、今後「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」に関しては上述の取り組みを継続していき、「書くこと」の領域において、自分の意見や考えを構築し、それを論理的に記述し、表現できるような取り組みを展開していきたいと考えます。

●数学科《概要》

- <数と式> … 全国平均正答率を上回る
- <図形> … 全国平均正答率を上回る
- <関数> … 全国平均正答率を上回る
- <資料の活用> … 全国平均正答率を上回る

●数学における成果と今後の改善点について

正答率においては、ほとんどの問題で全国平均正答率を上回っています。しか

し、無解答率については、全国平均を上回っている問題が半数以上存在しています。

観点別の項目では、特に、数学的な技能の観点での正答率が高いです。正答率が全国平均を下回った問題は、2枚の硬貨を投げた時の確率を求める問題でした。7割以上の生徒が正解していますが、全国平均も高かったためやや下回ったという状況です。

無解答率が最も高かったのは「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」という問題で、約4分の1の生徒が無解答でした。記述式の問題に対して、苦手意識を持つ生徒が多いことが伺えます。

今後の授業では、計算等の技能の習得に終始することなく、既習事項との関連や実生活への活用を意識した指導を進めてまいります。答えを出すだけでなく、そこに至る思考の過程を他者に伝える、という活動を多く取り入れた授業を研究し、学校全体で推進していきたいと思っております。

●英語《概要》

◎主として『読むこと』に関する問題

日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。大阪府の平均も、全国の平均も本校は上回っている傾向にあります。

◎主として『聞くこと』に関する問題

聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。大阪府の平均も・全国の平均も本校では上回っています。

◎話すこと調査については、参考値としてではありますが、全国値を上回っています。

●英語における成果と今後の改善点について

「読むこと」や「話すこと」については、リスニングテストとスピーキングテストを授業に取り入れ、その対策のために普段の授業でも聞く力や話す力の向上のための取り組みを行っていることが一因と思われます。

しかしながら、まとまりのある文について、説明文の大切な部分を理解すること」に重点を置いた問題は、全国の平均を下回っています。普段から速読リーディングの力をつけていけるよう、帯学習として取り組むことや反復するなど、できるだけたくさんの読み物にも触れる機会を作っていきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

◎「朝食を食べている」「毎日同じ時刻に寝ている」という項目は、全国平均を上回っています。生活習慣がきちんとついている生徒が多いことがわかります。昨年と同様に「自分には良いところがある」の項目に、「当てはまる」と答えた人の割合が、全国平均を下回っています。また、「将来の夢や目標を持っている」に「当てはまる」と答えた生徒も大変少なく、全国平均を下回っています。これらのことに関しては、数年来校区内両小学校との合同研修・連携の中でも、校区全体の課題としてとらえております。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という項目についても全国平均を下回っていました。子どもの自尊感情を高める取り組みを両小学校とともに推進していきます。「人が困っているときは、進んで助けていますか。」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という項目は、全国平均を下回っていました。道徳や人権教育を推進したり、日常的な取り組みを行うことで、人権感覚を養うことを目指します。

「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。」「学校の規則を守っ

ていますか。」「学校が楽しいですか。」という項目は全国平均よりも上回っています。生徒の真面目で、一生懸命に取り組む姿勢が表れています。生徒の良い部分を伸ばしながら、一社会人として互いを思いやれるよう教育活動を行っていきます。

【教科・学習について】

◎「学校の授業時間以外に、普段一日あたり2時間以上勉強している」と回答した人の割合が45%近くに達する高い割合で、全国平均を上回っています。この内容については、学習塾や家庭教師等での学習時間も含んでいます。

「読書をしますか」という質問に対して、「全くしない」と回答した人が35%近くいるとともに、30分以上の読書をする率も全国平均を下回っています。

しかしながら「読書が好きですか」の項目では、70%弱の子どもが当てはまるの項目に回答している現状があります。

ICTの使用頻度を問う項目では全国平均を上回る高い活用が伺われ、「生徒間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」

「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」という項目についても8割程度の生徒が肯定的な回答をしています。

既存の学習だけではなく、幅広い知識を備え、活用することが今後の社会には求められています。子どもたちの10年後の社会を見据えて、学習指導要領改訂にも伴い、新たな学校教育を進めるとともにご家庭と連携していきたいと思います。

3 今後の取り組み

前述の分析の通り、今年も本校の生徒の学力については概ね良好な状態であると考えています。また、教科の学習に関して、まじめに取り組んでいる佐井中学生の姿が垣間見えます。新しい学習指導要領が見据える2030年は、AIの時代だと言われています。学びの素地は持っている子どもたちが、これからの時代に求められている主体的に学びを活用し、人生や社会に生かせる力を養うためには、保護者・地域との連携・協働が不可欠となります。学校と保護者・地域が「目標やビジョン」を共有し、社会総掛かりで子どもたちを育むことが求められています。

今後とも佐井寺中学校の教育活動に、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。